

Onishi Art Festival 鬼石芸術祭 2026

9月11日~10月17日 群馬県藤岡市鬼石

9月11日・12日	ワークショップ I 妖怪工房	地元アーティストとともに、妖怪パレードで使用する仮面や衣装を制作する2日間のワークショップです。※要申し込み
	シロオニアートセンター	
9月19日・20日	ワークショップ I 妖怪工房	地元アーティストとともに、妖怪パレードで使用する仮面や衣装を制作する2日間のワークショップです。※要申し込み
	シロオニアートセンター	
9月21日	Caja de Chiaki 立ち上げ	このたび、堀越千秋の作品群を基軸とした新たな拠点「カヤ・デ・チアキ」の構想をスタートします。今回は完成した施設の披露ではなく、作品群の保存・継承、そして今後のあり方をともに考えるためのワーキングサロンを開催します。
	千秋の箱 - 鬼石532-1	
9月24日	ロスト・イン・モーション 09	スペインとアルゼンチンからの滞在アーティストが、フラメンコと舞踏を融合させたパフォーマンスを披露します。
	旧みのわ - 鬼石102-3	
9月25日・26日	ワークショップ II 妖怪工房	地元アーティストとともに、妖怪パレードで使用する仮面や衣装を制作する2日間のワークショップです。
	シロオニアートセンター	
9月27日	ピナ踊り	鬼石の大門通りが舞台となり、ピナ・バウシュ(舞踊家・振付家)の代表作「ネルケン・ライン」を地域住民とともに再現するパフォーマンスが行われます。※ネルケンはドイツ語でカーネーションの意
	旧みのわ 周辺	
10月02日	百鬼夜行	鬼石の地名の由来となった鬼の伝説に着想を得て、妖怪たちの行列が秋の夜の町を彩ります。地域住民とアーティストは開催前に仮面や衣装づくりに参加し、百鬼夜行をつくり上げます。
	鬼石神社～シロオニアートセンター	
10月03日・10月04日 ～10月12日	展示会オープニング 未踏の領域	会場では、鬼石芸術祭がこれまで地域で育んできた活動の歩みを紹介します。また、本芸術祭の礎を築いた堀越千秋の作品や地域との関わりにも焦点を当てます。さらに、13年間にわたり300名を超えるアーティストを国内外から迎えてきたシロオニ・レジデンシーの活動とその歴史についても紹介します。オープニング週末には、アーティスト・トークやパフォーマンス、地域参加型プロジェクトを実施します。
	シロオニアートセンター	
10月09日	宗主神 - パフォーマンス	アニタ・グラッツァーデザイン「7層のアンティークペーパー十二単」を身に纏ったMotoeKaの公演。盛岡タ美子の現代雅楽に合わせた創作ダンスから、岩笛の生演奏とともに躍動する実験的な舞へと昇華します。
	旧譲原小学校	
10月10日 ～10月17日	Caja de Chiaki 展覧会	Caja de Chiakiは、故堀越千秋の作品群を保存し、その魅力を未来へ伝えていくために始まったプロジェクトです。現在も空間づくりの途上にありますが、その歩みの始まりとして、堀越千秋に縁のあるアーティストたちによる作品展示を行います。
	千秋の箱 - 鬼石532-1	
10月11日	Furia Sagrada — 堀越千秋へのオマージュ	ジュリア・バレンシアと堀越千秋の友人たちによる、大西の街を練り歩く小さな行列。それは葬送と祝祭が半々のものであった。大地に染み入るようなフラメンコと、日本とアンダルシアの間に漂う無重力感が、互いを引き立て合っていた。
	鬼石 後日発表	
10月12日	遊玄へのいざない	盛岡タ美子氏が司会を務める、心と体を調和させる電子音楽と伝統音楽の融合体験。アニタ・グラッツァーによる紙のドレスを使ったファッションショーも開催されます。
	鬼石多目的ホール	
10月16日	サウンド・オブ・ミュージックキャスティングショー	地元の人々がミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』の特定の役を演じて才能を披露するオーディション番組です。オーストリアとライブ中継でつなぎ、現地の人々による審査も予定しています。これは次回芸術祭でのミュージカル公演に向けた準備企画でもあります。
	きぬや	
10月10日 から	シロオニスタジオ活動	「穴窯焼成ワークショップ」 各種アート教室 フィギュアドローイング、木工教室、紙すき教室、陶芸教室 パッケージ型ワークショップの開催
	毎週金曜日、土曜日	



Fujioka City
藤岡市



AC/E
ACCIÓN CULTURAL
ESPAÑOLA

